

2020東京オリパラ ホストタウンから始まるスポーツまちづくり

地域活性学会 第8回研究大会 スポーツ振興部会特別セッション 開催報告

概要

9月2日(金)～4日(日)、長野県小布施町にて「地域活性学会 第8回研究大会」が開催され、地域活性学会スポーツ振興部会は、全国各地の自治体を取り組んでいる「ホストタウン」をテーマに、地域活性学会員を中心に、ホストタウン登録及び登録を検討している自治体関係者等、約60名の方々の参加のもと特別セッションを開催しました。

開催期日：平成28年9月3日 17:10～18:40

会場：小布施町 音楽堂

参加人員及び対象：約60名

地域活性学会会員 ホストタウン登録自治体

ホストタウン登録検討自治体 他

※長野県東御市長 小布施町長も参加

テーマ：2020東京オリパラ ホストタウンから始まるスポーツまちづくり

講演 (1)

「クロアチアホストタウン推進と地域活性化」

新潟県十日町市教育委員会

文化スポーツ部スポーツ振興課 課長 井川純宏 様

ホストタウン構想実現のための課題を、2002年FIFAワールドカップ日韓大会開催時にクロアチアチーム代表チームにキャンプ地を提供し、その後、クロアチアとの交流を続け、今回、クロアチアのホストタウンとしての活動を他の地方公共団体に先駆けて展開し始めた十日町市の取り組みを状況について報告を頂いた。

H28.07.11 クロアチアホストタウン キックオフ

講演 (2)

「リオから東京そして未来へ」

内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局 参事官 羽生雄一郎 様

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、政府が進めるホストタウンについて、オリパラの基本的な考え、ホストタウンの定義、事業イメージとともに全国各地の事例紹介を織り交ぜていただきながら、ホストタウン事業の大きな可能性(地域づくり・地域活性化)を感じてご講演を頂いた。

ご講演のポイント

○(インバウンド観光など)地域の国際化への対応や、(バリアフリーの推進といった)共生社会の推進など、レガシー(地域の将来への財産)につなげることが重要であること。

○役所主導でなく住民の皆さんをしっかりと巻き込んでいただくことが重要であること。



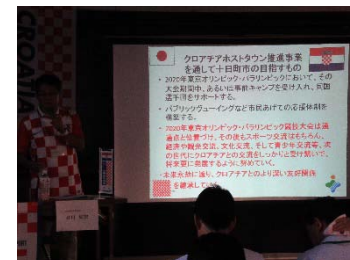
スポーツ振興部会 御園代表幹事挨拶



内閣官房 羽生参事官 講演



新潟県十日町市 井川スポーツ振興課長 講演



2020東京オリパラ ホストタウンから始まるスポーツまちづくり

地域活性学会 第8回研究大会 スポーツ振興部会特別セッション 開催報告

パネルディスカッション

【コーディネーター】

大阪大学教授(スポーツ振興部会代表幹事) 御園慎一郎

【パネリスト】

- ① 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会
推進本部事務局 参事官 羽生雄一郎 様
- ② 新潟県十日町市教育委員会
文化スポーツ部 部長 富井敏 様
- ③ 近畿日本ツーリスト株式会社地域誘客交流事業部
事業部長 青木淑浩 様
- ④ 一般財団法人日本スポーツコミッション 専務理事 福崎勝幸

政府の考え及びホストタウン構想の大きな可能性を念頭に、「ホストタウン活動は地域を活性化するために行う活動である」という、まちづくりに対する十日町市関係者の揺らがない信念と活動を例とし、御園代表幹事によるコーディネートによりパネリストの方々からご自分たちのご経験からホストタウンと地域づくり・地域活性化、ホストタウン登録自治体の現状と課題、期待される効果、スポーツによるまちづくりの可能性について、考えを頂いた。

- ① 羽生様からは、政府の立場からホストタウンと地域づくりや地域活性化についての幅広いご助言を頂戴した。
- ② 富井様からは、ホストタウン事業を展開する行政の立場として、現状の課題と文化交流を含めた今後の展開について説明を頂いた。
- ③ 青木様からは、数々のビッグイベントのご経験を踏まえ、旅行会社としてホストタウンにおける交流の重要性和、まちづくりの一つのテーマとして「ノーマライゼーション」の取り組みに向けての良い機会(ホストタウン及びパラスポの推進)であること。またその重要性についてお話いただいた。
- ④ 福崎からは、スポーツを活かしての地域活性化に取り組んでいる立場から、ホストタウン推進の可能性、有効性そして重要性について話した。

また、会場からは2002FIFAワールドカップ日韓大会におけるキャンプ地の社会的効果発揮によるレガシーについて報告とホストタウンへの期待。あるいは、東京オリパラに向け、地方自治体が取り組む事業の最新情報など発表があり、会場の参加者を交えた活発な議論が展開され、今後のスポーツ振興部会の取り組みに繋がる意見交換の場となった。



パネルディスカッション



会場より 拓殖大学 松橋准教授



会場より 東御市 花岡市長



2020東京オリパラ ホストタウンから始まるスポーツまちづくり

スポーツ振興部会

地域活性学会「スポーツ振興部会」はスポーツを通じた地域活性化の動向を文部科学省をはじめとする関係諸官庁との連携の上で研究するとともに、わが国におけるスポーツ文化の育成とスポーツを活かした地域活性化のために必要とされる「政策の立案・提言」に向けた検討を目的として幅広いメンバーの参加を募る中で活動をしていく。

◆過去の取り組みテーマ

- (1) 総合型地域スポーツクラブ (2) スポーツツーリズム

◆平成28年度以降のテーマ「**ホストタウン推進による地域活性化**」

○「ホストタウン構想の推進がもたらす全国各地の地域づくり・地域活性化」の可能性を関係者とともに見出してゆく。

○ホストタウン構想の推進による地域づくり・地域活性化の実現のため、過去の成果を共有し地域活性化に関わる各種情報、事例、政策あるいは熱き思い(念い)がある人たちが集まる又は共に連携できる環境(プラットフォーム)づくりを進めてゆく。

今後の計画

地域活性学会第8回研究大会及び同特別セッションでの各種意見を踏まえ、今後以下の取り組みを進めることとした。

1. (公社)日本青年会議所 関係委員会との連携協議
2. 地方自治体及びホストタウン推進に係る関連団体への出前セミナー (仮)「ホストタウン推進と地域活性化」の実施
3. (仮)「ホストタウンによる地域活性化シンポジウム」の開催
4. (仮)ホストタウンサミット等企画
5. その他

2016年～

青少年交流 スポーツ交流
文化プログラム 産品輸出PR
地域情報発信 人材育成プログラム

2020年

事前キャンプ
対象国選手応援
パブリックビューイング
パラスポ応援

2021年以降

相手国とのつながりをさらに深め、
地域の社会的効果を高めて行く

社会的効果の広がり

